

令和5年度 事業報告書

施設名	特別養護老人ホーム いずみ苑	
評価	令和5年度 事業目標	令和5年度 事業報告
事業目標	<p>法人の理念である『明るい、暖かみのある雰囲気がある施設』を基本とし、利用者様が安心して施設生活を送れるように支援していくことを目標といたします。</p> <p>重点目標として、コロナ感染症に注意しながら、利用者様に楽しんで頂けるイベントや企画を実施していく事に尽力します。</p>	<p>重点目標である、利用者様に楽しんで頂けるイベントとして、毎月開催している「誕生日会」に力を入れ実施をしました。従来であれば季節のメニューを栄養士が献立を考え提供していましたが、今年度より誕生者の利用者様に食べたいものを確認し、希望をメニューに反映し提供しました。</p> <p>又、外出に関しては、桜・こいのぼり・コスモス・紅葉等の屋外の行事を実施。コロナ感染症に注意しながら行事の実施が出来ました。</p>
施設サービス	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、活動内容も大きく変化しました。</p> <p>集団感染症に留意しながら、利用者様が楽しく充実した生活を行っていただけるように、目標達成に向けて活動を行います。</p>	<p>令和6年1月29日から2月20日までの22日間新型コロナウイルス感染症のクラスター対応を行いました。感染の経路は栄養課(調理師)からの感染拡大となり利用者様25名職員16名合計41名の大規模のクラスターとなりました。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症が原因での入院は1名です。</p> <p>収束後、栄養課全員に感染対応の研修を実施。再度マニュアルの確認を徹底しています。</p>
人材育成 資質向上	<p>【新人職員(特定技能介護職員)の指導に関して】</p> <p>日々の指導の状況を指導職員が把握して、次回の指導にあたるように、グループチャットを導入して情報の共有化を図ります。</p> <p>日々の指導・育成の情報の共有化を行うことで、特定技能介護職員個々の得意不得意を理解し、個人に合わせて指導・育成に努めます。</p>	<p>グループチャット機能を利用した情報の共有化は、新人1名、特定技能2名で活用しています。</p> <p>チャットへの記載内容は、1, 日の指導内容 2, 出来ている業務・課題となる業務 3, 次回勤務時の注意点。以上3点です。</p> <p>グループチャットを導入した事で、指導方法の重複・ずれ等が無くなった事、継続した指導ができることで新人職員の育成につながりました。</p>
施設稼働率	<p><u>平均稼働率94%以上</u>を目標とします。</p> <p>退所後、入院後の空室を入所や空所利用で早急に対応し、稼働率の維持、向上を行います。</p>	<p><u>平均稼働率 85.9%</u></p> <p>令和5年4～5月の稼働率の低迷。その後も入院者が多く稼働率があがらず、令和6年1月から2月のコロナ感染症クラスター対応の為、入所を停止していたこともあり、稼働率が目標に届きませんでした。</p>
その他	<p>【職員の離職防止対策の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の役職者1名から2～3名に増員。 ・モチベーション管理シートを用いた役職者面談の実施。 <p>以上2点を行い、職員のモチベーションを管理マネジメントに力をいれ離職防止を強化します。</p>	<p>役職者面談は年2回実施。</p> <p>各職員のモチベーションを確認しながら、業務の悩みや希望の確認を行っております。</p> <p>令和5年度の退職者は、特定技能2名です。</p> <p>退職理由は、</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師資格に合格し、看護師に転職が1名 介護福祉士の試験に不合格となり母国に戻った方が1名 <p>面談の実施で退職者の軽減につながっていると考えています。</p>

令和5年度 事業報告書

施設名	介護老人保健施設 いずみ苑リハビリケアセンター	
評価	令和5年度 事業目標	令和5年度 事業報告
事業目標	<p>【ベッド回転率アップ】 入所長期化による介護量増加の為、特養レベルの方の特養への移動を行い回転率アップを目指します。</p> <p>【介護度1, 2の方の在宅復帰】 介護度3以下の方で自宅に帰れず、特養へ行けない方へのリハビリ強化をし、在宅復帰を目指します。</p> <p>【基本報酬のアップ】 「その他型」から「基本型」へ基本報酬アップを目指します。</p>	<p>ベッド回転率平均3.6% 特養への移動(いずみ苑3名、小倉町いずみ苑5名、清和園1名、ひだまりの里1名、こぶしの里1名 計11名)はできましたが、入退所のバランスが悪い月が多く、回転率アップは難しかった。</p> <p>在宅復帰の話を利用者様、ご家族に行いましたが、利用者様は家に帰りたいたいと思ってもご本人が独居生活や同居していてもご家族が仕事や介護に対して不安等の理由で在宅復帰へと進みませんでした。今年度はショートステイ以外の在宅復帰は0名でした。昨年度は、4月より支援相談員2名体制で行く予定でしたが、5月に1名が退職してしまい当初の計画(入所担当と退所担当を分けて対応していく)と違ってしまい基本報酬アップには至りませんでした。</p>
施設サービス	<p>【入所継続判定会議の見直し】 ・入所の長期化、介護量の増加がみられる為、介護度3以上、リハビリ意欲の低下、疾病等、総合的に判断し、入所継続・退所を決定していきます。又、在宅復帰が難しいと判断した方、特養が望ましい方に関しては特養の申し込みをして頂き、法人内外の施設への流れを作ります。</p> <p>【サービス担当者会議(ケアプランの見直し)】 看護・介護・リハビリ職員・管理栄養士が意見・情報交換を密に行い、ニーズに合ったサービスを提供します。</p>	<p>入所継続判定会議にて、総合的に判断し、家族へ特養への移動の話をして法人内外の施設を含め11名の方が特養へ移動しました。</p> <p>4月より施設ケアマネージャーが入職した為、各職員と新たな関係を築きながらサービス担当者会議を開催し、ケアプラン作成をすることができました。</p>
人材育成 資質向上	<p>中堅職員の育成として、役職者の仕事を割り振り、次期役職候補としてスキルを身に着け、自覚を持ちながら仕事ができるように、指導する。</p> <p>内部・外部の研修に積極的に参加し、職員一人一人のスキルアップを目指す。</p>	<p>4月より3名が役職として昇進。5名体制となり職員の指導にあたることができました。</p> <p>苑内の勉強会(感染症、身体拘束、虐待、事故防止、褥瘡、ハラスメント)に積極的に参加することができました。又、外部(ユニ・チャームや千葉市社会福祉研修センター主催)の研修にも積極的に参加することができました。</p>
施設稼働率	<p><u>平均稼働率95%以上</u>を目標とします。</p> <p>医療機関連携室、各居宅事業所、地域包括等との連携、法人内特養や近隣施設との連携を図り、入退所がスムーズに行えるように対応し、稼働率の維持、向上を行います。</p>	<p><u>平均稼働率90.0%</u> 昨年度が、90.3%と0.3%減少しました。</p> <p>7月10日から8月17日までコロナ感染症クラスターが発生 3階 7月10日から7月28日 19日間 2階 7月25日から8月17日 24日間</p> <p>収束まで長期間かかり相談中の方のキャンセルや重症化により入院4名(1名搬送先で死亡、1名退院不可)その他にもコロナ以外で入院してそのまま施設に戻って来られない方も多く、稼働率は上がりませんでした。</p>
その他	<p>【職員とのチームワークを作る】 報告・連絡・相談の「ほうれんそう」を大事にする。</p> <p>【委員会・居室担当の充実化】 委員会・居室担当を見直し入所者と深く関わり、質の高いケアにつなげる。</p>	<p>Gmail を活用し、「ほうれんそう」を密にすることができました。</p> <p>委員会会議はオンラインを活用し委員全員が参加することができるようになり、沢山の意見が出るようになりました。</p> <p>退所時の入所者に関する書類作成を担当者が作成することにより深く関わられるようになりました。</p> <p>EPA 候補生1名(フィリピン) 母国の家族看病の為帰国。令和6年1月15日付で退職。</p>

令和5年度 事業報告書

施設名	特別養護老人ホーム 小倉町いずみ苑	
評価	令和5年度 事業目標	令和5年度 事業報告
事業目標	法人の理念である『明るい、暖かみのある雰囲気がある施設』を基本に、いずみ苑グループの8つの基本ケアを取り入れ下記の目標とします。 1丁目ユニット 『トイレに座る』をもとに介護予防を実践するユニットにする。 2丁目ユニット 『あたたかい食事をする』『外にお出掛けをする』『夢中になれることをする』をもとに全利用者様を対象にイベントを実施する。 3丁目ユニット 『座って会話をする』をもとに個々への対話と接遇に特化したユニットにする。	法人の理念を基本に、各ユニットで目標を作成し根拠のある介護を実践しました。職員主体で様々な活動を行うのではなく、利用者様のやりたいこと、できることを取り入れ、様々な企画や行事を行いました。目標達成に向け下記の点を行いました。 ・外出、調理会 季節の行事。 ・介護の質の向上のため、施設外研修、施設内 WEB研修 の参加。 ・要介護度の上昇に伴い、看取り介護(施設内で最後まで過ごす)の希望も多く聞かれ5名の方の看取り介護を行っています。
施設サービス	新型コロナウイルス感染症の影響で、活動内容も大きく変化しました。感染症に留意しながら、利用者様が楽しく充実した生活を行っていただけるように、ユニット毎の目標達成に向けて活動を行っていきます。	・新型コロナウイルス感染症に留意しながら利用者様のやりたい事、できる事を取り入れ様々な活動を行いました。 ・令和5年9月に千葉県監査実施指導が5年ぶりに行われ、指導項目もなく適切に施設運営を行うことができました。
人材育成 資質向上	次世代の役職育成を目指し、若手介護職員を中心に役職者候補を選出し、マネジメント教育を行っていきます。 EPA 介護福祉士候補生4名、千葉県留学生受入プログラム2名の計6名の受入れを行っています。介護福祉士の国家資格の取得が行える様に、外国人人材の教育に力を入れていきます。	・職員の退職は3名となっており、昨年に引き続き職員の出入りも少なく安定していました。(介護職員1名、看護師1名、居宅事業所ケアマネージャー1名) ・若手介護職員を中心に役職候補者を選出し教育を行い、令和6年4月からは、3名が新たに役職者(ユニットリーダー)となり、介護の現場をまとめています。 ・ベトナム人介護福祉士候補生2名が令和6年1月の介護福祉士国家試験に合格しました。合格後も当苑での就業を希望し、ビザを介護に変更しています。
施設稼働率	<u>平均稼働率96%以上</u> を目標とします。 退所後、入院後の空室を入所や 空所利用 で早急に対応し、稼働率の維持、向上を行います。	令和5年度年間稼働率 95.7% 1日平均 57.4人 今年度は、順調に稼働も目標値に近づいていましたが、1月中旬にインフルエンザ感染症の発生(入居者16名 職員5名 計21名)に伴い、1月～2月の稼働がかなり低下し、目標の96%以上の稼働が達成できませんでした。
その他	【外部受入れ・地域交流】 感染症に留意しながら、地域との交流や学生の介護実習等に協力し「福祉を知ってもらう」活動を継続して行います。また、法人内の就業にも繋がるように受入れ施設側の質の向上を行います。(介護福祉士実習指導者の資格取得など) 【介護ロボット】 最新の介護ロボットを職員が学ぶ機会を作り、介護ロボットの必要性について検討し、介護ロボットの導入により、入所者のADLの維持、向上や職員の介護負担を軽減していきます。 【経費削減】 職員ひとりひとりがコスト意識をもって、光熱費、物品、備品を適正に使用していきます。	【外部受け入れ・地域交流】 介護福祉士養成校、社会福祉士養成校、近隣の高校生のボランティア、特別支援学校など、感染症にも留意しながら、外部や地域との関わりを持ちました。 令和6年の障害者雇用も実習を通して2名の方が採用に繋がっています。 【介護ロボット】 令和5年度は介護ロボットのデモを5つ行い、最新の介護ロボットに触れて学ぶ機会をつくりました。補助金を使用しコミュニケーションロボット「パルロ」の購入も行っています。 【経費削減】 日々の業務の中で、光熱費、物品を適切に使用しました。オムツ業者に3ヵ月毎のパッドの使用状況のデータ化を依頼、オムツ類の見直しを定期的に行いました。

令和5年度 事業報告書

施設名	特別養護老人ホーム 第2いずみ苑	
評価	令和5年度 事業目標	令和5年度 事業報告
事業目標	<p>新たにフロアリーダーを配置したことで指示系統の見直しとユニットリーダーで解決できなかった課題に取り組みます。現在運用中の24時間プランの本格導入を9月までに実行し、継ぎ目無くサービス連携を図れるよう実践します。</p> <p>継続してサービスを適正に行えるよう、各ユニットでは以下目標を設定しました。</p> <p>1丁目ユニット:利用者様があたたかみを感じ安心して生活できるように支援する。</p> <p>2丁目ユニット:笑顔と思いやりを大切に優しい言葉、優しい態度で利用者様と接する。</p> <p>3丁目ユニット:職員と利用者様との関係を良好に保ち、利用者様一人ひとりのニーズを尊重する安心できる環境作りを行う。</p> <p>4丁目ユニット:チームという意識を常に持ち、利用者様の暮らしやすい環境作りを実現し、笑顔溢れるユニットにする。</p> <p>5丁目ユニット:職員同士、コミュニケーションを図りながら連携をとり、利用者様の個々にあったより良いケアの方法やサービス向上を目指す。</p>	<p>令和5年度より導入したフロアリーダーの配置により、ユニットリーダーや職員からも相談しやすくなったと話があり、情報伝達の仕組みが定着する実感がありました。</p> <p>支援提供方法に関しては、令和5年9月より24時間プランを本格導入し、お一人おひとりに向けての個別支援方法の周知や変更もスムーズになりました。</p> <p>利用者様の状況として、8月頃より複数人の利用者様の持病が悪化されたことをきっかけにご入院中や退所が相次ぎました。ご入院中の空いた居室利用を進めながらショートステイの提供を強化して対応しています。</p> <p>ショート利用者様の増加に伴い、同一の居宅事業所から複数回ご指名して頂ける場面も増え繋がりを感じた年となりました。</p>
施設サービス	<p>利用者様各々のご希望を聞き取り、それを反映できるようユニット内で検討します。聞き取りが出来ない方にもご家族や周囲の状況を勘案して企画立案を行います。</p> <p>現在、BBQ や出前会、敷地内での野菜栽培等も準備中であり、様々な声にも耳を傾けられるよう各ユニットで取り組んでいきます。</p>	<p>利用者様のご要望を共有するために24時間プラン作成時のルールとして、新規職員や外国籍職員にも共有しやすいよう分かり易い言葉を使うようプラン立てを行いました。</p> <p>企画では、ラーメン会やホットケーキ会のように食にまつわるものから、マニキュア会のようにオシャレを楽しんでいただく企画等、志向に合わせたレクリエーション活動を実施しています。野菜の収穫祭では、採れたての野菜をご覧いただくこと入所者様よりレシピのご提案があるなど、いい刺激になったと喜ばれていました。</p>
人材育成 資質向上	<p>職員の多国籍化を見越し、各ユニットリーダーが中心となって情報統一化と共有化を目指します。資質の向上として、来年度予定されている認知症介護実践者研修全ての受講を計画しており、OJT,OFF-JTを含め職員全体の技術力向上を図ります。</p>	<p>認知症介護基礎研修 6名、認知症介護実践者研修 1名、認知症介護実践リーダー研修 2名受講し、認知症についての知識と技術を習得して実践に繋げられるよう内部研修を実践しました。新規職員には技術チェックリストを使用し計画的に指導を行い、自身で得意不得意分野を把握してもらいながら実務に就いています。</p>
施設稼働率	<p>年間平均稼働率:92%</p> <p>継続してサービスを適正に行える人員確保を実現し、稼働率アップを目指します。</p>	<p>年間平均稼働率 91.5%、前年度比+3.8%(年間 1,390 床利用増加)となり、目標達成には至りませんでした。</p> <p>原因として、9月~12月の間で計 17 名が退所された事や、前年度 4 回ほど新型コロナウイルス感染による対策期間があり、スムーズな受入れが困難だった事等が挙げられます。</p>
その他	<p>来年度の必須事項である栄養マネジメント計画を実行して参ります。栄養士も運営会議などの場で発言できるよう調整し、互いの連携を図ります。</p> <p>日々の楽しみの一つとなっている食事に対し、栄養面は勿論、彩りや嗜好に合わせた提供に努める為、苑内定期巡回等を取り入れて嗜好に合った食事提供に努めます。</p>	<p>栄養マネジメント計画作成や各企画に対しての実績は概ね達成する事が出来ました。</p> <p>加算関係として、看取りケア加算は管理栄養士が不在となっております。加算算定にはつながっていません。看取り対応実績としては計 11 名となっています。</p>

令和5年度 事業報告書

施設名	千葉県あんしんケアセンター千城台	
評価	令和5年度 事業目標	令和5年度 事業報告
総合相談支援業務	<p>・ご高齢者の気持ちに寄り添った丁寧な聞き取りを行い、住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるように共に考え、適切なサービスや機関、制度に繋げる等の支援を行います。</p> <p>総合相談支援を適切に行うため、地域のネットワーク(医療機関、介護サービス事業者、商店等)や様々な社会資源(民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会地区部会、自治会等)との連携、ご高齢者宅への戸別訪問や地域住民からの情報収集を行い、ご高齢者の心身の状況や家族との状況等について実態把握を行い適切な支援を行います。</p>	<p>・電話や来所相談等、相談者へ丁寧な聞き取りを行い、利用者様の気持ちや背景を確認し、適切なサービスや機関、制度に繋げる等の支援を行いました。</p> <p>総合相談支援を適切に行うため、地域におけるネットワーク(医療機関、介護サービス事業者、商店等)や様々な社会資源(民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会地区部会、自治会等)との連携や周知活動を行った結果、令和5年度の相談件数は1,172件で、令和4年度の1,106件から66件ほど増加しています。</p>
包括的、継続的ケアマネジメント支援業務	<p>・支援を必要とする利用者様が地域で暮らし続けることができるよう、ご高齢者を支える地域のケアマネージャーの支援や主治医、介護事業者や施設等との連携、地域における相互職種の協働に向けて地域における体制づくりを行います。</p>	<p>・若葉区多職種連携会議年2回、担当圏域ケアマネージャー連絡会年3回、若葉区 ソーシャルワーク連絡会3回開催し、主治医、介護事業所や施設等との連携、地域における多職種の協働体制づくり、ケアマネージャー支援等を行いました。</p>
権利擁護業務	<p>・権利擁護を目的とするサービスや仕組みを有効活用し、ニーズに即したサービスや機関に繋ぎ、適切な支援を提供する事で、ご高齢者の尊厳のある生活を維持します。</p> <p>(1) 成年後見制度～成年後見制度の利用促進に向けて、制度の利用説明及び必要により市長申し立ての支援を行います。</p> <p>(2) 高齢者虐待防止～虐待を把握した場合には、区担当課へご高齢者の状態を速やかに報告し、必要に応じて区担当班と連携し、速やかに必要な対応を行います。</p> <p>(3) 消費者被害防止～消費者被害を未然に防止するため、地域の消費者以外に関する情報を把握し、民生委員やケアマネージャー等に提供し被害防止に努めます。</p> <p>※若い世代の方々へ認知症を正しく理解して頂き必要な支援をお願いするために圏域の中学校で「認知症サポーター養成講座」を開催します。</p>	<p>・理解力、判断力の低下により権利侵害行為の対象となりやすいご高齢者の擁護や権利行使の支援を目的として適切なサービスや機関に繋ぐ対応を行いました。</p> <p>(1) 成年後見制度～制度の利用促進に向けて、ご高齢者が集まるサロンや体操教室で普及啓発の広報活動を行いました。</p> <p>(2) 高齢者虐待防止～令和5年度は19件の虐待(疑い)相談がありましたが、区高齢障害支援課と連携し、対象者の支援に必要な対応を行いました。</p> <p>(3) 消費者被害防止～被害の未然防止のため、地域の消費者被害に関する情報を収集し、民生委員やケアマネージャー等に提供、被害防止に努めました。また、千葉東警察署と介護サービス事業所の情報交換会を行い特殊詐欺の手口等を学び、日々の業務を通じてご高齢者へ注意喚起を行いました。</p> <p>「認知症サポーター養成講座」 ①更科中学校全校生徒 35名 ②千城台西中学校1年生 88名 ③千城台高校剣道部 15名 ④社会福祉協議会地区部会員 38名 ⑤千葉市新規採用職員 218名</p>
介護予防ケアマネジメント業務	<p>・ご高齢者が元気なうちから積極的に健康づくりや介護予防に取り組むきっかけとなるようにセンター直営の体操教室の運営、自治会や社会福祉協議会地区部会主催のサロン等を訪問し、健康講座開催等を行い介護予防活動への参加を促します。</p>	<p>・センター直営の体操教室は月2回、年2回の体力測定会を含めて746名の参加を頂き、健康増進に向けた活動を行いました。また、社会福祉協議会地区部会のサロン等は毎月6ヶ所を訪問し、体操や脳トレ、各種講座開催等を行い介護予防活動への参加を促しました。</p>